

第5回高岡市立学校通学区域審議会議事録

- 1 開催日時 平成20年2月15日(金)午後2時～3時10分
- 2 開催場所 高岡市役所3階庁議室
- 3 出席者
委員 14名
山西潤一 亀遊壽之 石澤宣子 石橋弘行 伊藤晃三
大村嘉秀 大森義信 上嶋美智子 塩崎吉康 高戸勇
西田修 増山貴美子 宮本信子 米田巴
(欠席者 本多武二 水名昭二 要藤安宏 吉田人史
米田淳一 吉川佳子)
事務局 10名
教育長 教育委員会理事 教育委員会学校教育課長
教育委員会総務課長他
- 4 議事の内容
一審議事項一
(1) 中間答申に対するパブリックコメント、住民説明会での意見について
【事務局より説明】
(2) 高岡市立学校通学区域審議会最終答申(案)について
＜諮問事項1＞
市内中央部と東部地区における小中学校通学区域の弾力化及び見直しについて
① 下関小学校区について
下関小学校区で住民説明会を開催し、多くの意見をいただいているが、下関小学校区の地域の方々は、通学区域の弾力的運用に関して基本的に合意しているのか。
下関小学校区の地域としては、通学区域の見直しについては受け入れられないとしているが、通学区域の弾力化については可能であるとしている。

② 野村小学校区・能町小学校区・中学校区について

野村小学校区の通学区域の弾力的運用地域とされている自治会にいる児童数は。

野村東町・富田町・深田町・寿町一丁目、寿町二丁目の児童総数は、21年度10名、22年度12名、23年度11名、24年度15名、25年度8名である。

野村第五の一部・下石瀬の一部・美原町・長和里・石瀬東町・いわせ野・新和町・雇用促進住宅・野村第四の一部の児童総数は、21年度37名、22年度30名、23年度25名、24年度38名、25年度26名である。

通学区域の弾力的運用地域で弾力化が実施されれば、小学校の過密化は解消されるのか。

通学区域の弾力的運用地域にいる児童のうち、何人の児童が通学区域を変更するか、現段階では分からないため、小学校の過密化の解消に直接つながるかどうかは、これからである。

野村小学校は市内一の大規模校である。答申案では、今後の児童数は横ばいであるとされているが、これから大きなマンション等の建設も予定されており、児童数はさらに増加することが見込まれるのではないかと。

答申案では現在見込まれている児童数を考慮しており、将来的にマンションの建設等による児童増については、社会的要因による増加として取り扱いたい。

通学区域の弾力的運用に、野村小学校から高陵中学校に通学できる案が新たに追加されたのは、住民説明会などでの住民の声や要望を反映したものだとも考える。しかし、今回、当審議会に諮問された事項は小学校の過密化解消についてであり、野村小学校から高陵中学校に通学できる案は、小学校の過密化解消ではなく、中学校の過密化解消につながるため、弾力的運用対象から外すべきではないかと。

現在、野村小学校だけでなく芳野中学校も飽和状態にある。芳野中学校の状況を考えると、野村小学校から高陵中学校への弾力化も認めていいのではないかと。

野村小学校から高陵中学校という選択肢は、小学校の過密化解消を取るのか、中学校の過密化解消を取るのかの取舍選択になる。今回の小学校の過密化解消という諮問事項からすれば、当審議会の答申には、この選択肢を含める必要はないのではないかと。

近所の方々に通学区域の弾力化について聞いてみると、野村地

区に住んでいる以上、定塚小学校という考えは少なく、野村小学校しかないという考えが強いようである。通学区域の弾力化については、いろいろな選択肢がある方がいいと考えるので、野村小学校から高陵中学校の選択肢は残しておくべきではないか。

答申案に賛成である。野村地区、下関地区では今後、マンション・アパート等の建設も想定されることから、将来的な児童増も視野に入れて今後も引き続き検討していただきたい。

< 諮問事項 2 >

上記以外の地区における小中学校通学区域に関する課題への対応について

答申案では、戸出西部小学校区では通学に際し安全上の問題があるとし、福岡小学校区の赤丸地区では、今後通学区域の弾力化等を検討する必要があるとしているが、今後の検討、取り扱いはどうなるのか。

各地域から要望があれば随時、通学区域審議会を開催し、協議していきたいと考えている。

市としては、検討の必要性があると考えているが、各地域には地域の伝統や歴史もあり、容易に変更できるものではないため、地域の方々の声を聞きながら、随時対処していききたい。

答申案の(3)の表題に、『その他、審議会で議論された地域等』との記載があるが、この部分では、特別な議論はなされていないため、『その他、審議会で検討された地域等』に修正した方が良いのではないか。

『その他、審議会で検討された地域等』に修正したい。

< 諮問事項 3 >

児童生徒の減少期における適正な学校規模及び学校配置の考え方について

『学習環境』という言葉が使われているが、児童数を念頭において考えている文章であることから、適当ではなく、他の言葉に修正したほうが良いのではないか。

国などでは、学習の場という意味で、学習環境という単語を使っているようである。

教師、児童数などの学校間格差や施設、建物等の学校間格差など全てにおいて網羅するために学習環境という言葉を使っている。

5 その他
教育長より挨拶

6 閉会